

体外受精・胚移植

精液から運動性の良い精子を集めて、卵胞から取り出した卵子を培養液の中で受精させ、受精した卵子を子宮に移植する方法です。卵管内で起こる排卵から着床に至る過程を迂回できるため、とても有効な方法です。

体外受精・胚移植の進め方

- ① 体外受精の前の月経周期21日目から排卵抑制剤を使って自然に排卵しないようにします
- ② 月経3日目から卵胞刺激ホルモンを注射し、たくさんの卵子を育てます
- ③ 月経8日目頃から超音波で卵胞の大きさと数をチェックし、発育状態を確認します
- ④ 卵胞が18-20 mmになったら、卵子の成熟と排卵を促すhCGを注射します
- ⑤ 翌日、卵子の採取と体外受精を行います（当日、精液を採取してください）
- ⑥ 体外受精の翌日に受精したかどうかを確認します
- ⑦ 体外受精から3日目または5日目に発育した卵子を子宮に移植します

